

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4070402559 | | |
| 法人名 | 有限会社 たんぼぼヒューマンサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム たんぼぼの家 | | |
| 所在地 | 〒803-0836 福岡県北九州市小倉北区中井5丁目6番28号 Tel 093-571-1833 | | |
| 自己評価作成日 | 令和06年09月25日 | 評価結果確定日 | 令和06年11月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 令和06年11月08日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年開設以来、1ユニット(9人)の入居者の皆様が安心・安全に暮らせるように、19年間、常に職員一同が本事業所の理念である「地域に根差したサービス提供」「心に優しいサービス提供」「きめ細かなサービス提供」に心掛けて、入居者及び御家族に寄り添い、運営を行っています。
感染症がまだまだ消息傾向にないため、感染症対策に心掛け、健康第一に努めています。入居者の皆様も、日々、年齢を重ねられ、様々な持病が再発したりすることもあります。職員全員で日々、懸命に対応に当たり、毎日を快適に過ごせるように、懸命に健康管理に努めています。これからも入居者の皆様が、快適にホームで過ごせるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の憩いの場である境川公園の横に19年前に開設した、定員9名の地域密着型グループホームである。手入れの行き届いた庭があり、地域の方から届けられる花々に彩られた民家改造型のアットホームな雰囲気のホームは閑静な住宅街に溶け込み、近隣からボランティアも訪れる等、地域に根ざしたサービスに取り組んでいる。提携医による往診と訪問看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整い、高齢化、重度化が進む利用者一人ひとりに対してきめ細かなケアに取り組んでいる。風通しの良い環境の中で職員が定着し、管理者を中心に幅広い年代の職員が助け合い、思い合って、利用者の心に届く優しいサービスを提供している。毎食、職員が手作りする家庭的で美味しい料理は利用者の大きな楽しみである。写真をたくさん載せた「たんぼぼだより」を毎月送付して家族の安心に繋げ、「いつも笑顔で楽しそう。ここに預けて良かった。」と、家族の信頼も厚い、グループホーム「たんぼぼの家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 本施設の事業理念をホール正面に掲示しています。毎年1月の職員の定例会には必ず事業理念を全職員に周知・徹底すると同時に事あるごとに、理念をふまえての行動に努めています。さらに実践に繋がられるように一人一人が自覚して行動しています。事業理念は共有のノートに貼り付けています。 | 事業理念をホールの見やすい場所に掲示し、毎年1月に行う定例会で職員全員に理念を周知している。定例会ノートに理念を貼りつけて、職員一人ひとりが常に目にする事で自らのケアを振り返り、「地域に根ざしたサービス提供」「心に優しいサービス提供」「きめ細かなサービス提供」に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 開設以来、地域の皆様にホームにお越し頂いたり、町内会にも加入したり、様々な町内活動にも参加していたが、コロナ禍では、思うように地域活動にも取り組むことができなかったが、少しずつ交流も図るようになってきた。地域の方がボランティアでおしゃべりにも来て頂いています。 | 新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、少しずつ地域の方との交流を再開し、フラダンスを披露してもらったり、近隣の方が傾聴ボランティアに訪れている。地域の方とのコミュニケーションに努め、日常の挨拶をしたり、生花や花の苗、野菜の差し入れを頂く等の近所づきあいは継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 玄関前の掲示板に、行政からの様々な認知症などを含む情報や他業者からの情報などを掲示して、地域の皆様にも様々な情報提供を積極的に掲示しています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で従来のような地域の役員様、長寿会の方々等様々な方にお越し頂いての運営推進会議ができませんでしたが、コロナウイルス感染症が第5類となり令和5年8月より従来のような運営推進会議を実施しています。 | 新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、令和5年8月より対面での会議を再開している。自治会代表、長寿会、民生委員、家族、地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームの運営や活動状況、事故・ヒヤリはつとについて報告し、各委員から質問や意見を聴き取り、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センター及び市町村の介護保険課へ不明な点について問い合わせをしたり、グループホーム協議会でのオンライン会議を通じて、様々なアドバイスなどをサービスに反映できるようにしています。 | 空き情報を毎月ファックスで報告し、事故があった時にも報告を行っている。疑問点や困難事例について、地域包括支援センターや市の介護保険課に問い合わせ、相談する等、協力関係を築いている。グループホーム協議会で意見交換の機会があり、運営推進会議に地域包括の担当者の参加がある。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修に参加できていないが、身体拘束委員会を年間4月、7月、10月、1月に開催しており、その都度、最新の情報を資料作成し、全職員に通達して研鑽しています。個人の考え方の違いが無いように、ホームとしての身体拘束ゼロの指針に沿って取り組んでいます。 | 身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催し、職員間で身体拘束が利用者に及ぼす弊害について話し合っている。管理者が職員に身体拘束、虐待に関する資料を渡して説明し、職員全員に周知徹底している。身体拘束ゼロの指針を掲げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止委員会開催の中で、虐待防止について情報を共有している。上記と同様に、外部機関で実施されている研修については、参加できない場合もありますが、日常生活での、介助や特に言葉使い等注意をはらいながら周知徹底をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設のケアマネージャーを中心に、定例会などで権利擁護について学習・研修し、入居者の皆様が制度に対する理解をし、活用できるように支援に努めています。 | 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、定例会の中で研修を行い学ぶ機会を設けている。制度の資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から制度について相談があれば内容を説明し、制度が活用出来るように支援している。現在、制度を活用している利用者はいない。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には時間をかけて説明し、様々な疑問・質問に対応し、十分に理解と納得をして頂き、不安な入居がきるように努め、入居者及び御家族に納得していただけるように書面にして手渡せるようにしています。退去時も同様に、質問を聞き、納得して退去して頂くように努めています。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設の玄関入り口に、意見箱を設置して、利用者、御家族等の意見、要望等、要望書と封筒も一緒に置いていますので、気軽に意見箱に入れられるようにしています。さらに、要望書に対する要望対応書も作成しますので、施設運営にできる限り反映させています。 | ホームでの会話の中から、利用者の意見や要望を聴き取っている。家族とのコミュニケーションに努め、面会時や電話等で意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、玄関に意見箱を設置し、要望を表せるようにしている。利用者の笑顔の写真をたくさん載せた「たんぼぼだより」を毎月家族に送付している。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会において職員間で話し合い、または個別に職員一人一人の申し出、意見、要望、提案などを管理者および代表者と意見交換できるように、職員と定期的に会話ができるような機会を設けています。 | 職員定例会を2ヶ月毎に開催している。職員の意見や要望、提案等を聴き取り、ホーム運営や業務改善に反映させている。管理者は、職員一人ひとりが記録した「気づきメモ」のまとめを作り、職員間で情報を共有し、サービスの質の向上に繋げている。また、代表者も頻繁にホームを訪れ、職員と直接会話する機会を多く設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者はできる限り、施設に日々訪れ、職員へ声かけしたり管理者および職員からの意見などに耳を傾け、処遇の改善をはじめ、様々なことに努めています。職員、利用者に対しても、健康管理・感染症対策についても、周知徹底をしています。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集・採用については、年齢、性別に関係なく受け入れています。公募しても現在中々、応募してこられる皆無の状況です。職員については、休日希望のノートにより、各自の要望に応えられるように、保証しています。 | 管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に人員配置し、職員が楽しい気持ちで働ける職場を目指している。職員の休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、リフレッシュしながら働ける就労環境である。代表を始め、管理者、職員間の風通しが良い環境で、職員の離職は少ない。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 代表者及び管理者をはじめ職員には、日々、事業理念である「地域に根差したサービス提供」「心やさしいサービス提供」「きめ細やかなサービス提供」の根本は、人権を尊重することからはじめるとの考え方を話し合えるように努め、啓発運動を行っている。 | 利用者の人権を尊重する介護の在り方を、職員定例会や毎日の申し送り時に話し合っている。理念にもあるように、利用者一人ひとりのこれまでの人生を心から敬い、今この時、この一瞬を大切に介護サービスを目指すことを常に意識して、職員は日々努力している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員全員が、スキルアップできるように外部研修への積極的な参加を促しています。内部研修では、「気づきメモ」等を活用して様々なテーマで、意見交換しています。以前より、職員の意識が変わってきているように思います。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の管理者間でのグループラインを構築して情報交換を行っています。まだまだ感染症が完全に終息していませんが、徐々にネットワーク作りや情報交換の機会を設けていきたいと思っています。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 主治医およびケアマネージャー、御家族による情報をもとに、入居者本人への声かけ、本人からの訴えをよく聞くようにして、不安な気持ちを解消できるように日々努めながら、入居者との関係作りを行っています。その情報は「気づきメモ」に記載しています。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 御家族のみと面談できる時間を設け、様々な状況をお聞きし、不安要素、共感できることなどを共有し、御家族との信頼関係を深め、できることから始めて、ホームと御家族の関係作りを努めています。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時に入居者とともに御家族と面談させて頂き、必要な支援等のサービスについては、見極めを行い、必要な支援を行っています。また、介護保険外のサービスについても説明し、ホームで対応ができればいいことについても、御家族に納得のいくように説明をさせて頂いています。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ホームでの生活は、入居者が自宅であるとの認識を持って頂けるように、職員も入居者一人一人の気持ちを理解し、信頼関係を作り、なんでも語り合える関係を築き、家族のように寄り添い支援することに心掛けています。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | まだまだ感染症が終息していないため、玄関先での対応をし、入居者本人の現状(体調や気持ちの変化等)をお伝えしています。訪問ができない御家族には、電話で近況をお伝えしています。できる限り、そのような時間が取れるように心掛けています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 徐々に感染症に対する規制が緩和されてきており、御家族の皆様が馴染みの方も来所されることも、また地域の方もおしゃべりに訪れて頂いていますが、短時間でもお話ができるように努めています。また、電話、「たんぽぽ便り」等を通して、関係継続を図っています。 | 新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、利用者の友人、知人の訪問を歓迎し、面会時にはゆっくり話ができるように配慮し、訪ねやすい雰囲気作りを心掛けている。また、定期的に電話で近況報告を行い、「たんぽぽだより」を毎月送付し利用者の様子を伝えている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士での外出などができない状況なので、ホーム内で過ごすことが多いため、レクの準備、洗濯物のたたみなどを入居者同士で行い、支え合いの支援をしています居る間でトラブルになりそうであれば、席替えなどして支援しています。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 従来、入居者が入院した場合などは、病院への面会に行ったりもしていましたが、まだまだ病院への面会もできないところも多くあり、医療連携室などに電話したりして、状況確認後に、御家族に連絡したりしています。退去時については、ご本人の今後の方向性、御家族のご意向を受け止め、相談に応じています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人一人の入居者に対して、日々できる限り、会話をすることでコミュニケーションを図り、聞き取りしながら入居者ご本人の気持ちを汲み取り、申し送りノートや気づきメモに残し、入居者ご本人の御希望に添えるように、対応しています。 | 職員は日常の会話から利用者の思いや意向を把握し、申し送りノートや気づきメモに記載して職員間で情報を共有し、希望の実現に取り組んでいる。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談しながら利用者へ寄り添い、その表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時や様々な機会を通じて、入居者ご本人や御家族から情報を頂いたり、これまでのケアマネージャーからの情報を把握し、必要としている事や物については、スムーズに対応できるように努め、見極めを行っています。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、健康で安心な日常生活が送れるように心身の状態などを見極め、支援に努めています。いまだ終息まで至っていないコロナ等の感染症には、特に注意をはらい、毎日の申し送りでは個々の心身の状態を全職員が周知し、日々快適に過ごせるように主治医との連携も図るよう心掛けています。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者の個別の変化に気づいたことなどを記録し、一人一人の心身の状態を理解し、支援するとともに一日の始まりの申し送りでの情報を、常にカンファレンスに繋げ、介護計画を作成している。 | 職員やケアマネージャーは、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら話し合う機会を設け、意見や要望を聴き取り、職員の気づきや心配な事をカンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があれば家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護記録には、常に毎日をお元気に、楽しく過ごせるように健康状態や言動や行動などを、詳細記録しています。特に気づきメモには、気づいたことはを記入しています。それをもとに定例会または申し送りの際に、話し合い、介護計画の見直しに繋がっています。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | これまでコロナ禍で入居者に対して慎重かつ詳細に体調管理を中心に把握し、様々な状況変化に対応しながら状況によって、玄関先にて感染症対策をしてから短時間で面会を行ったりしてきました。これまで様々な状況にできる限り、入居者のニーズに応えられるように臨機応変に対応してきました。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍では中々、地域の方との交流も控えなければならぬ状況もあったが、徐々に地域の方とも交流を図る機会もできてきた。特に地域の方がお話し相手にホームに来所されることもあり、また入居者の方がボランティアでフラダンスをされていた時の仲間の皆様も来所されたりし、楽しませておられます。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医には、日常的に連携を取り、日々情報を提供しながら、また、御家族とも連携を取り、適切な医療支援ができるようにしています。また、休日、夜間等もかかりつけ医との連携も図りながら、医療的支援を行っています。 | 入居前に利用者や家族と話し合い、主治医を決定し、緊急時の搬送病院の希望を聞き取っている。2ヶ所の内科、眼科の往診体制が整い、各医療機関とも良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。また、些細な変化や出来事も、その都度家族に報告している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員については、看護及び介護職、計画作成も兼務していますので、入居者との日常の関わりの中で、様々な情報を共有し、気づきの内容についての相談をして、入居者が適切な医療支援を行えるように支援しています。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の病院の担当医、担当看護師また院内の連携室の相談員の方との連携を積極的に図り、早期の退院ができよう、情報交換や相談をしながら関係作りにも努めています。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当施設では、ターミナルケアを実施していないということを入居時に御家族等に説明し、御理解を頂き、主治医との連携を図り、できる限り入居者及び御家族の気持ちに寄り添えるように支援に取り組んでいます。 | 契約時に、利用者や家族に、重度化に向けたホームの方針を説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と連絡を密に取りながら、主治医も交えて話し合い、出来るだけ利用者や家族の希望に応える終末期の支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員全員が、入居者の急変時及び事故発生時に、対応できるようにするため、マニュアルを目につく場所に貼り、確認できるようにしています。緊急時は初期対応の応急処置については、日常の業務中(OJT)にてまたは定例会等を通して身につけるようにしています。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | コロナ禍においても火災訓練は年2回、地震、水害想定訓練も各1回実施しています。コロナ禍以前は消防署員、地域住民の皆様にも参加して頂き、昼夜を想定し火災避難訓練を実施していましたがコロナ禍においては訓練はホーム対応にて実施しました。避難用の備蓄品も完備しました。 | 昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。(コロナ禍以前は消防署や地域住民の参加も得ていた。)通報装置、消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認している。また、地震、水害を想定した訓練も実施し、災害時に備えて、非常食、飲料水を備蓄している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人一人のその日、その時の表情、状態をよく観察し、言葉を選んでの声かけ等、接し方に十分配慮しながら支援しています。状態によっては、その日静かに過ごした方がよい方などへは、一人一人の気持ちを大切に個々に対応しています。 | 利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、職員定例会や内部研修の中で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を尊重した介護の実践に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者一人一人に対して、時々物事に対する思いを表現できるように、その方にあった伝達方法を取り、気持ちを伝えられるように、ゆっくりと会話ができ、傾聴して対応しています。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の皆様が、一人一人の生活のリズムを保ち、希望にできる限り添えるように支援することに努めています。居室で過ごす(就寝)、他者や職員との会話、ホールの自席で読書する等、個々に支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者ご本人が希望により、衣服などを着替えたりされることもあります。その場合は、ご本人の話をよく聞きながら支援しています。頭髪については、近くの理髪店の方が来られていましたが、コロナ禍で停止し、現在は入居者及び御家族の了解の上、職員が散髪しています。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の皆さまの一番の楽しみが食事です。巻き寿司作り等お手伝いをさせていただいております。好みについては、本人の嗜好などを把握し、対応しています。ミキサー食およびトロミの必要な方は、個々に心掛けて調理しています。 | 利用者の食べたいものを聴きながら、職員が交代で作る美味しい料理を提供している。誕生会、お楽しみ会では手作りケーキやご馳走でお祝いし、利用者から大変喜ばれている。また、利用者の状態に合わせてミキサー食やトロミを付ける等細かく対応し、食事が美味しく食べられるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者一人一人の食事量、栄養バランス、水分量を形態などを考慮して提供させて頂いています。摂取量の少ない方は、栄養補充ドリンク、果物などで対応しています。(かかりつけ医、御家族と相談の上、対応しています)補水についても、時間帯を考慮して補水するようにしています。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアについては、毎食後に実施しています。不十分な範囲については、介助して清潔保持に努めています。なお自立されている方は、歯ブラシセットを出し入れしやすい位置に置き、声掛けしています。義歯の汚れにはその都度、注意観察しています。毎月、定期歯科往診して頂いています。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者一人一人に排泄状況を排泄表と日常の介護記録に記入して、排泄感覚の把握、排便のリズムの把握をおこなっています。それによって、時間毎のトイレ誘導で失禁を防ぐようにしています。 | 職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して、タイミングを見ながら一人ひとりに合った声掛けや誘導を行い、重度化してもトイレで排泄支援を行っている。夜間は、自分で起きられる方は見守り、誘導を行い、オムツ、リハビリパンツ使用にパット交換等、それぞれに合わせて支援している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 入居者個々の飲食時に、咀嚼状態など観察して、調理法の工夫をしたりしています。食事形態の工夫、水分補給状態などで便秘予防に努めています。また、主治医の指示により、服薬でのコントロールもしています。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴については、各自の入浴の曜日を決めて、事前に声掛けし、ご本人に伝えていきます。入浴拒否の場合には時間をおいて、再度声かけをし、ご本人が納得し入浴できるように声かけをしています。ほぼ実施できています。 | 入浴は利用者の希望や体調に配慮し、一人ひとりに合わせて行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、職員と一対一で談笑しながら、楽しい入浴が出来るように支援している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が代わってタイミングを見ながら声掛けし、無理な場合は清拭や足浴で対応している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者全員が日常生活の中での習慣を理解して、希望に沿った形で対応しています。御自分で行動できない方については、きちんと説明し「時間になったら起こしに来ます」と伝えるようにしています。安心して、臥床、休息、睡眠ができるようにしています。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬がきちんと把握できるように服薬管理ノートに記入するようにしています。また病院の明細管理、さらに申し送りノートに記入し、二重、三重に服薬管理の把握ができるように努めています。不明瞭な部分や病状の変化時には、必ず主治医との連携を図っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の皆様は、個々に性格が違いますので、役割として日々、様々なことを行っている方もいれば、あまり様々なことを好まない方もおられますので、入居時に聞き取りをした様々な得意とされていることを理解し、様々に声かけし、その時々にお手伝いや作業を共にして、楽しまれるように支援しています。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で思うように外出ができない状況が続いていますが、少しずつ終息の兆しが見えてきたり、再び、感染症が増加したりを繰り返してきていますので、外出支援については、個々に車椅子、手引きなどをして公園への散歩などを行っています。 | 玄関を出たら目の前に大きな公園があり、桜や花壇に咲く季節の花を見に出かけたり、個別に散歩を楽しんで気分転換を図っている。庭に面した日当たりの良い廊下の椅子に並んで日向ぼっこも楽しいひとときである。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 多額の現金を所持している方はおられません。小銭の所持されている方はおられます。お金のことについては、入居される時にも説明していますが、不安の訴えは、多いと思います。御家族からホームでお金をお預かりしていることを伝えると安心されます。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を使用される希望の方は、極めて稀におられますが、使用される時間帯を考慮しながら、対応しています。手紙のやり取りはほとんどありません。御家族には、『たんぼぼ便り』を毎月一回郵送して、対応しています。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室内には、入居者の皆様が作成された作品などを掲示したりして、完成した結果への達成感を得るとともに御家族と職員との会話に繋がっています。共有空間について皆さんで作成したりした貼り絵などが目で理解できはつきりと解るように張替えなどで季節感を考慮して定期的に行っています。 | 民家を改造した家庭的な雰囲気のホームは、庭に面した大きな窓からの採光で室内は明るく開放的で、利用者一人ひとりが自分の居場所で、好きな事をしながら自由に過ごしている。利用者職員は季節毎の壁画作りに取り組み、地域の方から届いた花を飾り、季節感や生活感溢れる居心地の良い共用空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースでは、テレ前のソファ、ベランダ前の廊下のベンチ、玄関入り口のベンチ、居室などに一人一人の居場所作りをしています。偶に台所も居心地のよい空間になっています。一人の時は、特に見守りを職員間で密におこなっています。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた物、仏壇や装飾品などについて相談の上、対応しています。入居後も好むものを飾られている方もいます。リネン整備、消毒、(天日干し)も実施しています。梅雨時・雨天時は、布団乾燥機などを使用し、居心地のよい環境作りに努めています。 | 入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が大切に使ってきた家具や寝具、仏壇や家族の写真、身の回りの物等、自分の思い出になっている物を身近に置いてもらうことで、利用者が安心して暮らせるように支援している。また、清掃が行き届き、換気にも気を配り、清潔で居心地の良い居室である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の入りロドアに必要な方は、名札をつけ、トイレ、洗面所、台所には表示の札を貼っています。目で確認できるように、入居者が行こうと思う場所に行けるように、工夫しています。 | | |